

【附表】 耐震診断の評価の結果と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価

耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性		
	I. 大規模の地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。	II. 大規模の地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。	III. 大規模の地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。
(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」	$I_s < 0.3$ または $C_{tu} \cdot S_d < 0.15$	左右以外の場合	$0.6 \leq I_s$ かつ $0.3 \leq C_{tu} \cdot S_d$

●震度6強から7に達する程度の大規模の地震に対する安全性を示す。いずれの区分に該当する場合であっても、違法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限りは、震度5強程度の中規模地震に対しては損傷が生ずるおそれは少なく、倒壊するおそれはないとされている。

【表の見方】

番号	建築物の名称	建築物の位置	主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上必要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考	
						内容	実施時期		
○	○○○○	○○○○	○○	○○○○	① $I_s =$ ② 0.50 ③ (0.60)	④ $C_{tu} \cdot S_d =$ ⑤ 0.25 ⑥ (0.3)	○○	○○	○○

●構造体の耐震性能を表す指標( $I_s$  値)と水平力に対する強度の指標( $C_{tu} \cdot S_d$  値)により、【附表】の構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性( I ~ III)のどれに該当するかを確認します。

●記号と数値の意味

- ①  $I_s$  値: 構造体の耐震性能を表す指標。
- ② 当該建築物の各階、各方向の $I_s$  値のうち最小のもの(耐震改修実施済みの場合は、改修された部分の最小のもの)。
- ③ 判定値( $I_{so}=0.6$ )。耐震改修済みの場合は、耐震補強の目標値(義務教育施設の耐震補強の目標値は、重要度係数1.25を乗じています)。
- ④  $C_{tu} \cdot S_d$  値: 主に鉄筋コンクリート造に適用される保有水平耐力に係る指標。
- ⑤ 当該建築物の各階、各方向の $C_{tu} \cdot S_d$  値のうち最小のもの(耐震改修実施済みの場合は、改修された部分の最小のもの)。
- ⑥ 判定値( $C_{tu} \cdot S_d = 0.3$ )。耐震改修済みの場合は、耐震補強の目標値(義務教育施設の耐震補強の目標値は、重要度係数1.25を乗じています)。